



# 向台

10月号

平成27年10月2日

中野区立向台小学校

## 共に学ぶ

副校長 松井 貴子

### 【教えて 考えさせる授業】



今週末で前期の授業が終了します。日頃より、本校の教育活動へのご理解とご協力いただき誠にありがとうございます。

子どもたちは、終了式には各自が「あゆみ」をもちかえり、次の目標に向かっての振り返りをする大事な時期となります。

さて、向台小学校では、都・区の学力にかかわる調査を分析し、日常の「できた」「わかった」という体験を大切にして児童が学ぶ意欲を高め、主体的に学ぶ力を育てております。

最近、よくお聞き及びの方もたくさんいらっしゃると思います。アクティブ・ラーニングへの取組も進めています。これからの教育の方向を示す言葉です。実は小学校では以前から行っていたもので

が、社会の変化に伴い、より一層意識して計画的に学校全体で取り組んでいくことが大事になっております。アクティブ・ラーニングの概念は、主体的で協働的に課題を発見し解決していく、例えば、授業場面では、自分一人だけでなく友達と協力して様々なことに取組、その一つ一つを解決していくことです。これまで言われてきた「生きる力」と似ています。「生きる力」とは、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、行動すること」、「自らを律しつつ、他人とともに強調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」と、「たくましく生きるための健康や体力」などまで含まれますが、アクティブ・ラーニングは学び方です。体験を積み重ね、既習事項や自分の経験をもとにして、予想を立てたり、仮説を立てたりし課題解決に取り組みます。その時考えたことや分かったことを友達に説明したり、あるいは分からなかったことを友達と話し合ったり、交流する中で解決に向けて考えていきます。

東京都教育実践発表会講演山口香氏の話によると、スポーツ選手を育てるときに、「夢を語る前に、夢を叶えるためには基礎を磨くことが大切である。」と指導するそうです。そして、その基礎を磨くために、選手一人一人が意見を堂々と述べ、互いの意見を分かり合いながら力を高めていくそうです。本校でも、教えることは教え、協働させたり考えたりして主体的に学ぶ子どもの育成に力を入れてまいります。

### 【かかわりの中で学びを深める体験】

3年生が、保護者の方の協力の下、「地域安全マップ」に取り組みました。保護者の方の協力の下、グループに分かれて自分たちの住む町を「見えにくい所」と「見えやすい所」、「入りやすい」と「入りにくい」というように視点を決めて防犯の視点で、あるいは交通量が「多い」「少ない」交通安全の視点で見つめ調べてきました。町をいろいろな視点で見ると、誰にとっても住みよい、便利な町、安全な町をつかっていくことは、考えてみますと、それこそ答えはひとつではないことが分かります。子どもたちは、体験的な活動を通して、やがて町をつくる、町で活躍する主人公になっていく力の土台を育むことができました。

保護者のご協力があって、子どもたちにとって、自分一人だけでなく友達と学ぶ良さを深める活動を安心して行うことができました。ご協力ありがとうございました。

